

シンポジウム 米軍再編とどう向き合うか —沖繩中部地区の課題PART3—

「ホワイトビーチ米原子力潜水艦寄港問題」について

日 時／2月15日(日) 午後1時 開場 午後1時30分 開演
会 場／うるま市 きむたかホール TEL.978-2219
(一般 500円 学生無料)

■ プレイベント 午後1時20分～ **ビデオ上映**
「原潜急増、沖繩の海で何が」(琉球朝日テレビ)

■ はじめに 午後1時30分～ **総合司会 仲地 博** (琉球大学教授)
・ 開会挨拶 シンポジウム「ホワイトビーチ原子力潜水艦寄港問題」開催に当たって
大学人の会 桜井国俊 (沖縄大学学長)
・ 中部市町村会よりのメッセージ
中部市町村会副会長 宮城篤実 (嘉手納町長)

■ 基調講演 午後1時40分～

① **「太平洋における米原潜活動の現状と問題点」** 午後1時40分

梅林宏道 (NPO法人ピースデポ特別顧問)

米国原子力潜水艦の日本への頻繁な寄港には、(1)何のための寄港かという平和・安全保障に関わる問題と(2)事故や放射能の危険という安全・健康に関わる問題がある。最近の米原潜には情報収集、特殊作戦などに重点があり、地政学的には対中国の行動であろう。米海軍原子炉についての情報公開の必要性が最大の問題となる。

② **放射能の正しい認識とホワイトビーチ・モニタリングの現状**
—ヒューストン放射冷却水をめぐって— 午後2時20分

棚原 朗 (琉球大学機器分析支援センター・放射化学)

放射能とは？放射線とどう違う？被爆国である日本は、放射能や原子力という言葉には過敏に反応する。しかし、その正体を知らずして恐れるばかりでは、対処の方法を誤まるであろう。正しい認識の基にその危険性と適正なモニタリングの方法等を見極めることが重要である。

■ 休 憩 午後2時50分～

■ パネルディスカッション 午後3時10分～
司会 **清川紘二**(「憲法・沖縄」問題研究会)
照屋寛之(沖縄国際大学)

「ホワイトビーチ原潜入港の経過とうるま市の対応」

知念 恒 男(うるま市長・中部市町村会会長)

パネリスト 梅林 宏道(ピースデポ特別顧問)

棚原 朗(琉球大学機器分析支援センター・放射化学)

知念 恒 男(うるま市長)

東 浜 光 雄(うるま市議会基地対策特別委員会委員長)

我 部 政 明(琉球大学)

桜 井 国 俊(沖縄大学)

ビデオ参加 横須賀・佐世保 「ヒューストン寄港の現場から」

■ 閉会の辞 午後4時50分～ 石原昌家(沖縄国際大学)



梅林宏道 氏



タグボートから原潜に荷物を積み込む乗組員ら。うるま市のホワイトビーチ沖合(琉球新報)



航行する米海軍原潜

主 催／沖縄の「基地と行政」を考える大学人の会 後 援／中部市町村会
問合せ先／照屋寛之研究室 TEL.893-8775 うるま市企画課 TEL.973-5005